

発火システムは人工知能のアーキテクチャの基盤なのですが、これへの言及が漏れていました。ここに追加記述します。

発火したニューロンはある時間の後に発火を自律的に止めることとなります。ディープラーニングに焦点を絞れば、それだけで十分な機構なのですが、ロボットが生きて行くとした場合にはそれだけでは不十分です。例えば、ある問題を解くという局面では、中心となる課題 **Concept** 群が発火しているはずですが、発火は問題が解けるまで続かねばなりません。なにか面白いテレビ番組があったとして、途中でそれを見たいとしましたら、問題解法の **Concept** の発火は停止して、テレビを見る **Concept** が発火せねばなりません。そうして、テレビを見終わったら、また問題を解くという **Concept** を発火しなおす必要があります。このようなジョブの切り替えとか強制停止とか、復帰処理なんかをするための、発火管理システムが必要であると言えます。

これを実現するには、ニューロンの発火には発火促進と発火を抑制する2つのネットワークがあるということと、発火している **Concept** の名前群をセットとして退避し、保存し、復帰に利用できるメモリ空間があるということです。メモリは、**Concept** セットを時系列に保存するものであり、処理途中での復帰を保証するために生活ログともなっている必要があります。

おわり